

天上へと向かう追悼コメント タイムラインパネルで送る

エンドーチェーン 遠藤養一 お別れの会



白で統一した間口6間の生花祭壇

Data

日時	2023年2月27日(月) 11時00分～13時00分
場所	江陽グランドホテル (仙台市青葉区)
故人名	遠藤養一(株エンドーチェーン代表 取締役社長) 2022年12月16日死去(93歳)
式形態	無宗教献花方式
祭壇形式	生花祭壇
会葬者数	700人
主催者	株エンドーチェーン
施行会社	株清月記(仙台市宮城野区)

祭壇データ

▶祭壇サイズ
間口10.8m×高さ2.5m×奥行1.8m
▶使用花材
白ギク700本、スプレーマム600本、ユリ100本、トルコギキョウ100本、カスミソウ100本、コチョウラン50本、グラジオラス50本、ストック50本、ロベロニー400枚、レザーファン200枚、ゴット120本
▶制作時間 / 2人で6時間

仙台駅前の商業ビル「EBeans」の管理運営を行なうほか、不動産賃貸業を手がける株エンドーチェーンの二代目社長であった遠藤養一氏が2022年12月16日に亡くなり、23年2月27日にお別れ会が開かれた。

同社は1928(昭和3)年、宮城県志太郡鹿島台(現大崎市鹿島台)に食料品・雑貨を扱う商店として開業。その後36(昭和11)年に呉服店を買収し、エンドーチェーンの第1号店である「仙台駅前ビル」を開店。東北初のボウリング場を併設し、注目を集めた。最盛期には最大48店舗を展開していた。

顧客への感謝の気持ちを表わすため、人気歌手の歌謡ショーを実施。なかでも当時地方興行をほとんど行なわなかった「美空ひばりショー」を企画・開催するなど、さまざまなイベントを展開し、告知広告をはじめ多額の宣伝費を投

じ、大きな反響を呼んだ。

故人は創業者の右腕として事業発展の中核を担い、78年に社長に就任。就任4か月後にはM7.4規模の宮城県沖地震が発生するも、翌日には全店舗を営業させ、採算度外視で市民生活を支えた。

お別れ会の会場となった江陽グランドホテルは、本社からも近く、仙台駅からのアクセスもよく、国賓級の宿泊場所としても使われるなど、優雅さをたたえるホテルである。

施行を担当した清月記では、かつてスーパー事業が隆盛を極めていた時代、さまざまなイベントや広告を打ち出していたエンドーチェーンに相応しい演出として、会社の歴史や広告などを主体としたメモリアルコーナーとし、宮城県民に愛されたエンドーチェーンを思い返す場づくりを心がけた。

当日は肌寒い2月下旬であったが、県内外から700人が訪れ、故人を偲んだ。



メモリアルコーナーでは、故人の幼少期からの写真に加え、斬新な広告を展開してきた同社の沿革なども掲げられた



パネルに組み込んだ135インチLEDディスプレイには、お笑いコンビサンドウィッチマンがテレビ番組でエンドーチェーンを訪れた際のシーンや、エンドーチェーンが90周年を迎えた際に作成したヒストリームービー、息女が作成した思い出ムービーなどをループ再生。かつてのCMソングなどが会場に流れ、懐かしさを誘った



門標



主に宮城県内で購読されている地方紙の河北新報が展開するニュースサイト「河北新報オンライン」で故人の訃報を掲載すると、Twitterに数々の哀悼コメントが寄せられた。そのtweetが故人に届くよう、天上へと向かうようなパネルでタイムラインを表現



創業時(1928年)の店舗兼住宅の模型。故人は翌29年に生まれた



エンドーチェーンの前身である遠藤屋呉服店のセール時に使用していた恵比寿様の看板